

令和2年度中学生チャレンジテスト
(第1学年・第2学年)結果について

柏原市教育委員会

1. 調査目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2. 調査概要

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査日 | 令和3年1月13日(水) |
| (2) 対象学年 | 中学校第1学年及び第2学年の全生徒 |
| (3) 調査内容 | 1年生:国語・数学・英語・アンケート調査
2年生:国語・社会AB・数学・理科・英語・アンケート調査 |

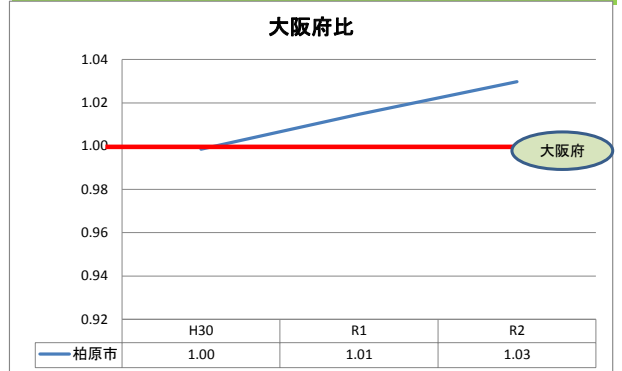
★調査問題掲載先

3-1. 1年調査結果(国語)

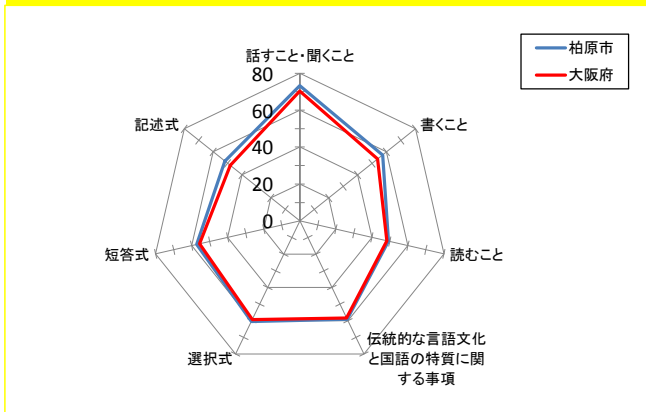
	平均正答率(%)
柏原市	57.8
大阪府	56.1

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	73.2	70.4	1.04
	書くこと	7	57.3	53.9	1.06
	読むこと	9	49.2	48.4	1.02
評価の観点	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	59.1	58.4	1.01
	国語への関心・意欲・態度	—	—	—	—
	話す・聞く能力	4	73.2	70.4	1.04
	書く能力	7	57.3	53.9	1.06
	読む能力	9	49.2	48.4	1.02
問題形式	言語についての知識・理解・技能	17	59.1	58.4	1.01
	選択式	12	60.3	59.3	1.02
	短答式	16	57.3	55.6	1.03
	記述式	3	51.8	48.2	1.08

◆中学1年生 過去3年間の比較(府比)



◆領域別等のレーダーチャート

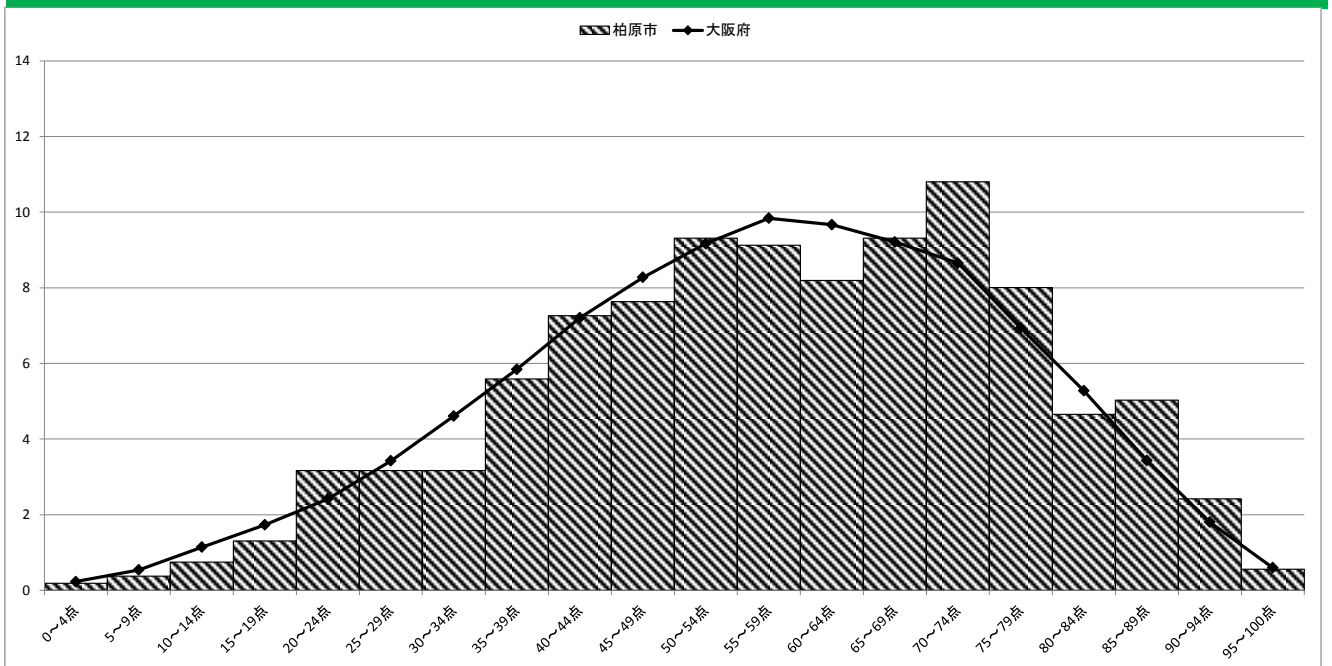


◆特徴的な傾向

- すべての項目において、大阪府を上回る結果となった。
- 過去3年間に、府比を上回る幅が増加している。
- 「書くこと」において、大阪府を3.4%上回った。
- 得点別分布では、大阪府と比べて40点未満の生徒が少なく、70点以上の生徒が多い。
- 無解答率は、柏原市が11.7%、大阪府が12.7%という結果であった。
- ▼「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」については、他の項目に比べて大阪府との差が小さい。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合

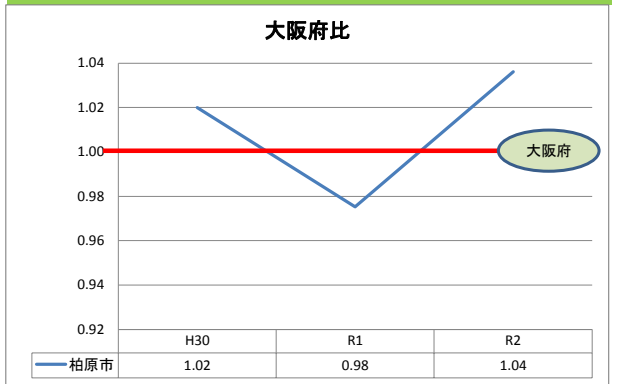


3-2. 1年調査結果(数学)

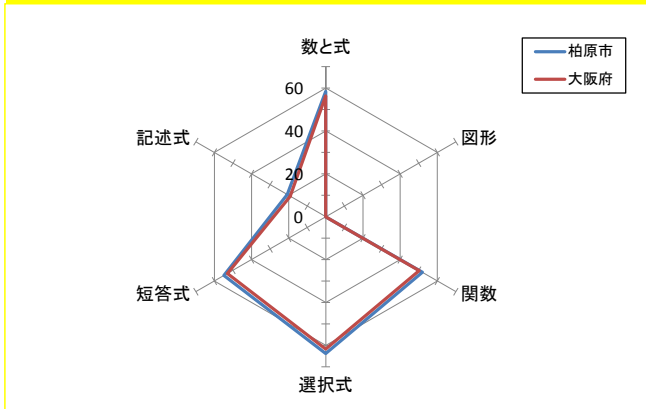
平均正答率(%)	
柏原市	55.9
大阪府	54.0

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	19	58.5	56.4	1.04
	図形	—	—	—	—
	関数	12	51.9	50.2	1.03
	資料の活用	—	—	—	—
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—	—	—
	数学的な見方や考え方	4	16.8	17.3	0.97
	数学的な技能	10	71.0	68.2	1.04
	数量や図形などについての知識・理解	17	58.9	56.7	1.04
問題形式	選択式	14	63.9	61.8	1.03
	短答式	15	54.9	53.0	1.04
	記述式	2	20.7	19.1	1.08

◆中学1年生 過去3年間の比較(府比)



◆領域別等のレーダーチャート

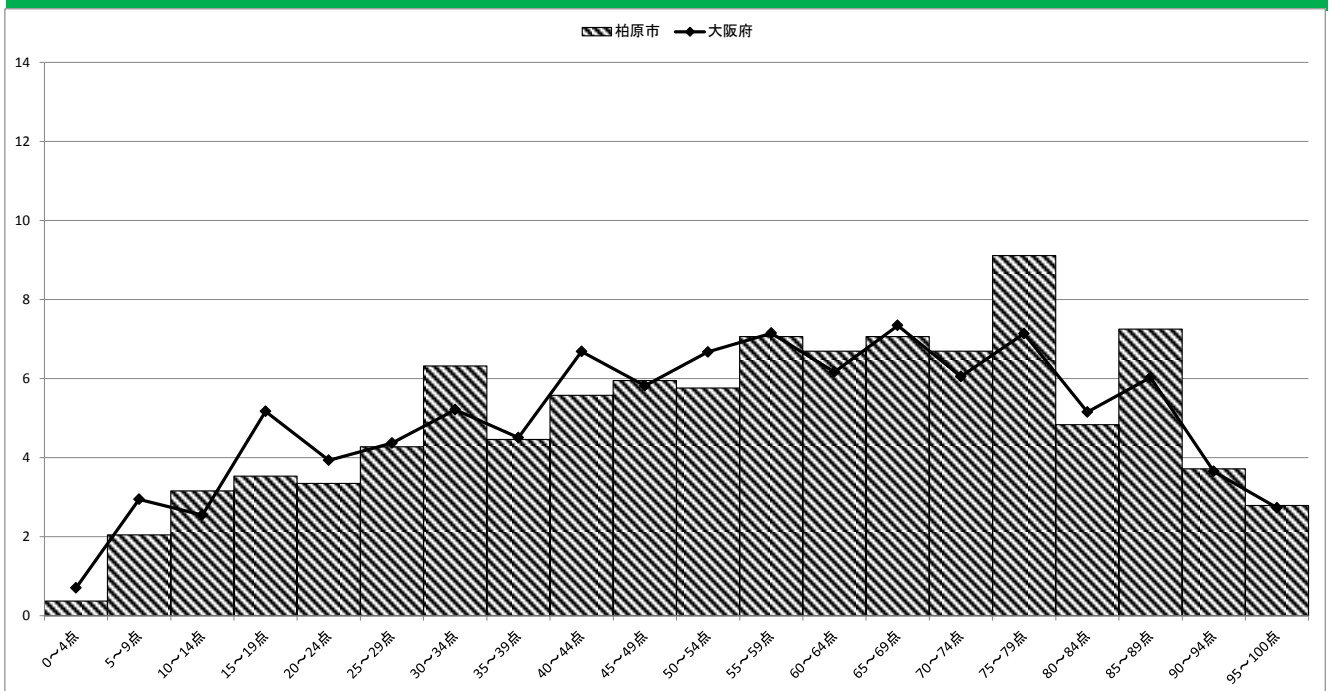


◆特徴的な傾向

- ほぼすべての項目で、大阪府を上回る結果となった。
- 府比を上回った一昨年度よりもさらに府比を上回った。
- 昨年度課題であった「記述式問題」で大阪府を上回った。また、この項目は府比が最も高かった。
- 得点別分布では、大阪府と比べて40点未満の生徒が少なく、80点以上の生徒が多い。
- 無解答率は、柏原市が7.3%、大阪府が8.7%であった。
- ▼数学的な見方や考え方は大阪府を下回った。
- ▼数学的な見方や考え方、記述式問題の得点率が低い。

※ ○印:成果 ▼印:課題

◆得点別分布の割合

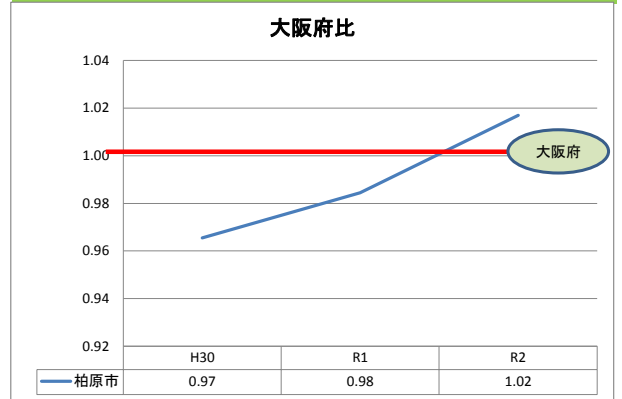


3-3. 1年調査結果(英語)

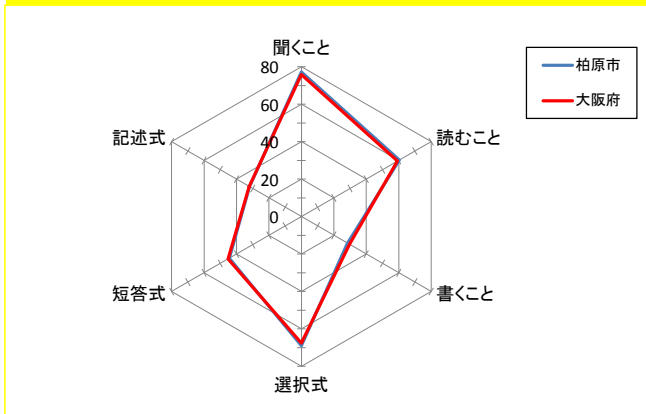
	平均正答率(%)
柏原市	64.9
大阪府	63.8

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	15	77.3	75.8	1.02
	話すこと	—	—	—	—
	読むこと	29	60.4	59.3	1.02
	書くこと	2	28.5	29.7	0.96
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—	—	—	—
	外国語表現の能力	1	25.0	26.8	0.93
	外国語理解の能力	35	66.2	64.8	1.02
	言語や文化についての知識・理解	5	65.3	65.8	0.99
問題形式	選択式	37	68.9	67.6	1.02
	短答式	2	44.5	45.2	0.98
	記述式	2	32.1	32.2	1.00

◆ 中学1年生 過去3年間の比較(府比)



◆ 領域別等のレーダーチャート

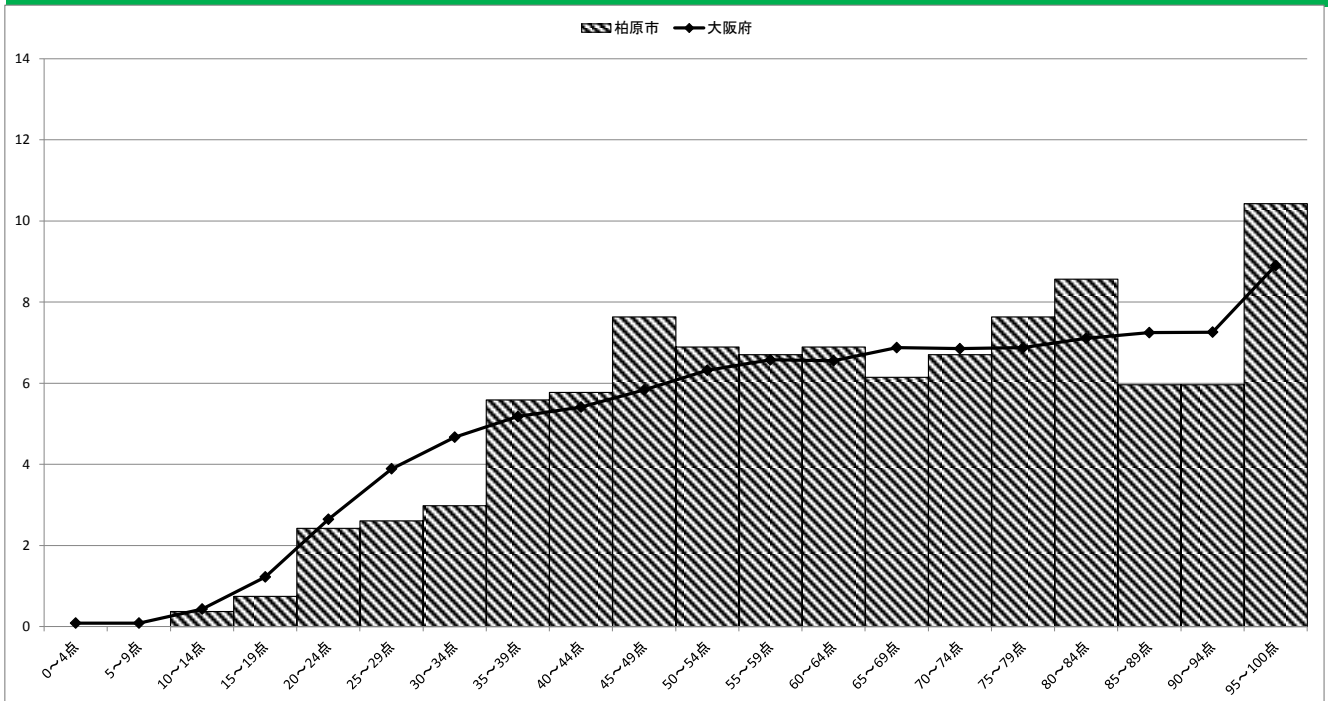


◆ 特徴的な傾向

- 4つの項目で、大阪府を上回る結果となった。
- 大阪府平均を上回った。
- 得点別分布は、大阪府に比べて35点未満の数が大きく少なく、80点以上はわずかに上回った。
- 無解答率は、柏原市が2.6%、大阪府が3.3%であった。
- ▼大阪府と比べて最も低かったのは「外国語表現の能力」であった。
- ▼昨年度より府比に近づいたが、依然として「書くこと」に課題がある。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

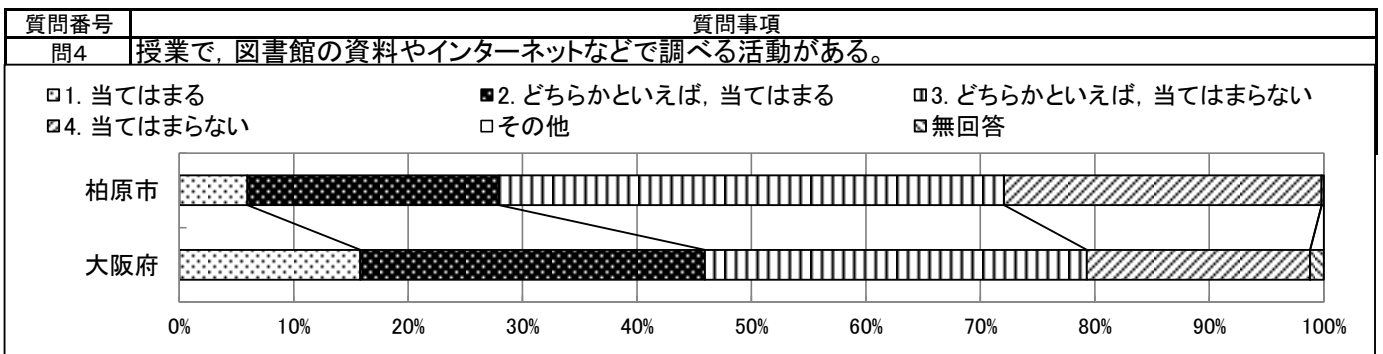
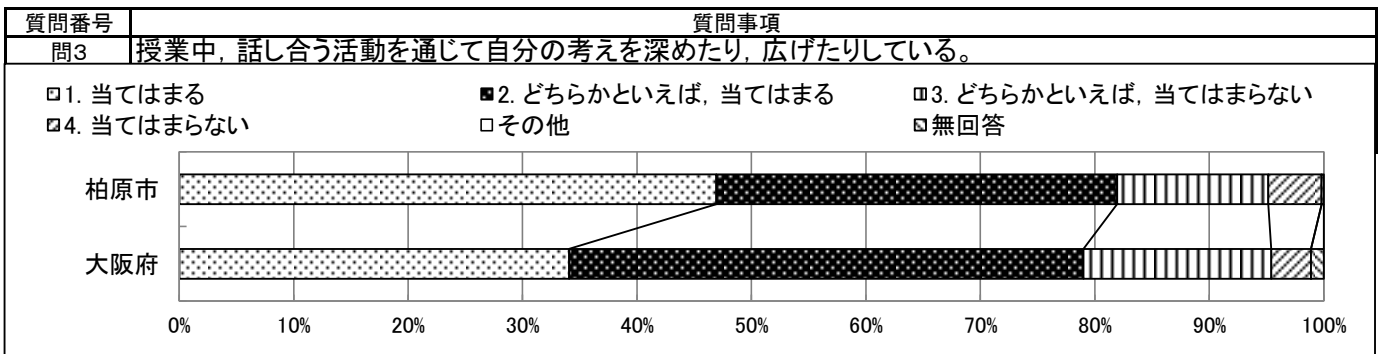
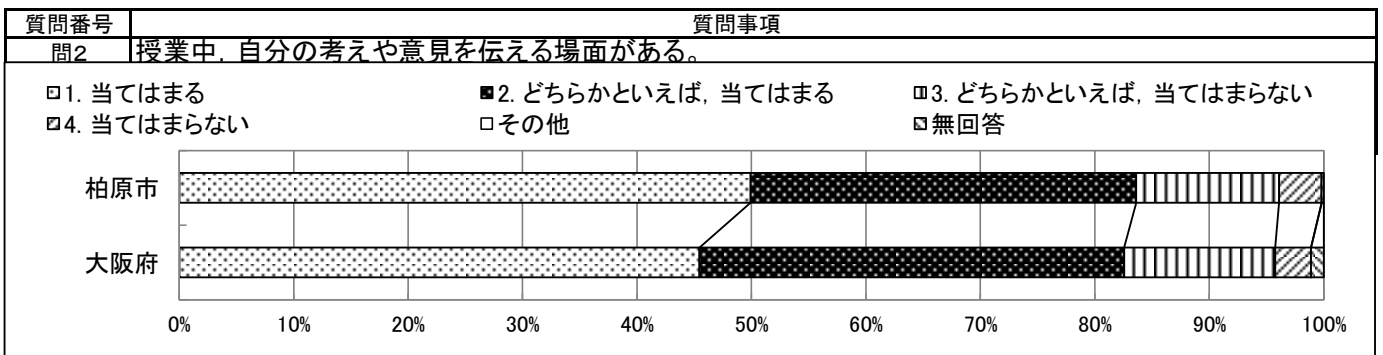
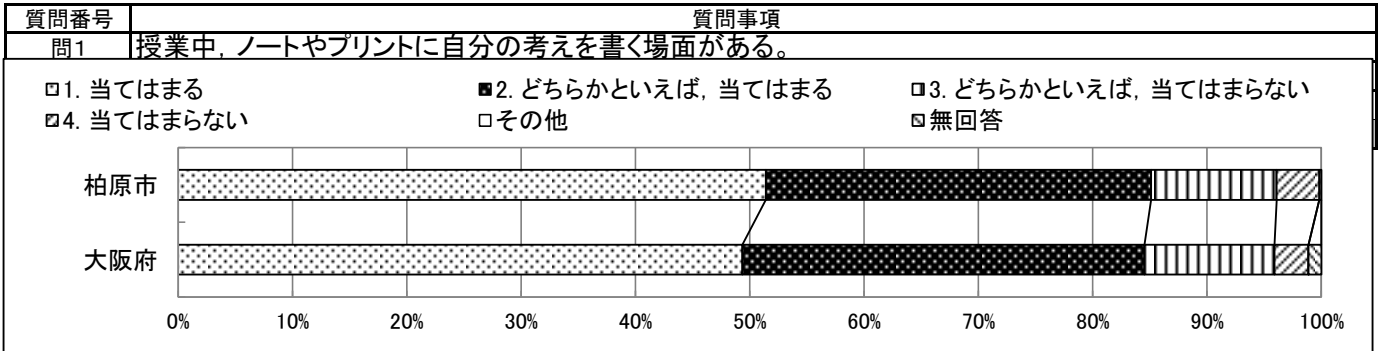
◆ 得点別分布の割合



令和元年度中学生チャレンジテスト（1年生）

アンケート結果
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	537

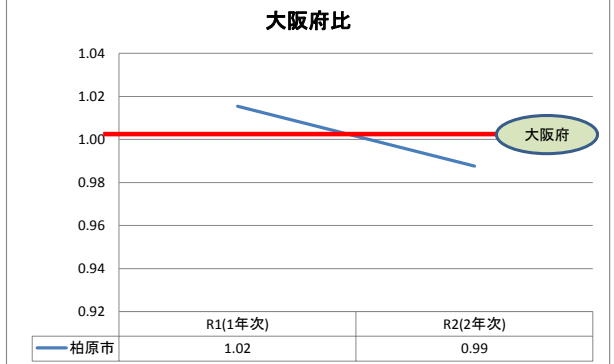


4-1. 2年調査結果(国語)

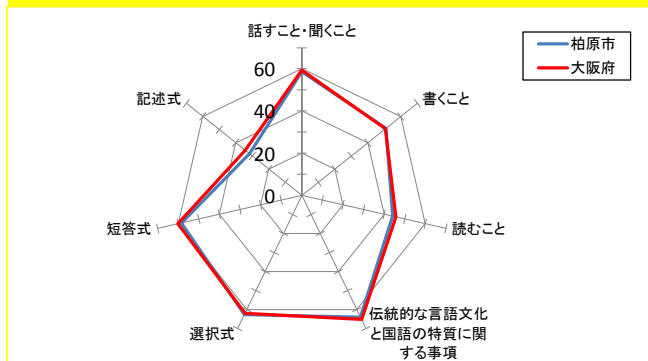
	平均正答率(%)
柏原市	57.6
大阪府	58.3

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	5	58.6	59.4	0.99
	書くこと	6	51.0	50.6	1.01
	読むこと	11	44.1	45.7	0.96
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	64.0	65.2	0.98
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	—	—	—	—
	話す・聞く能力	5	58.6	59.4	0.99
	書く能力	6	51.0	50.6	1.01
	読む能力	11	44.1	45.7	0.96
問題形式	言語についての知識・理解・技能	15	64.0	65.2	0.98
	選択式	13	62.6	61.9	1.01
	短答式	17	58.5	60.1	0.97
	記述式	2	31.7	34.3	0.93

★同一生徒集団の経年比較(令和元年度～令和2年度)



◆領域別等のレーダーチャート

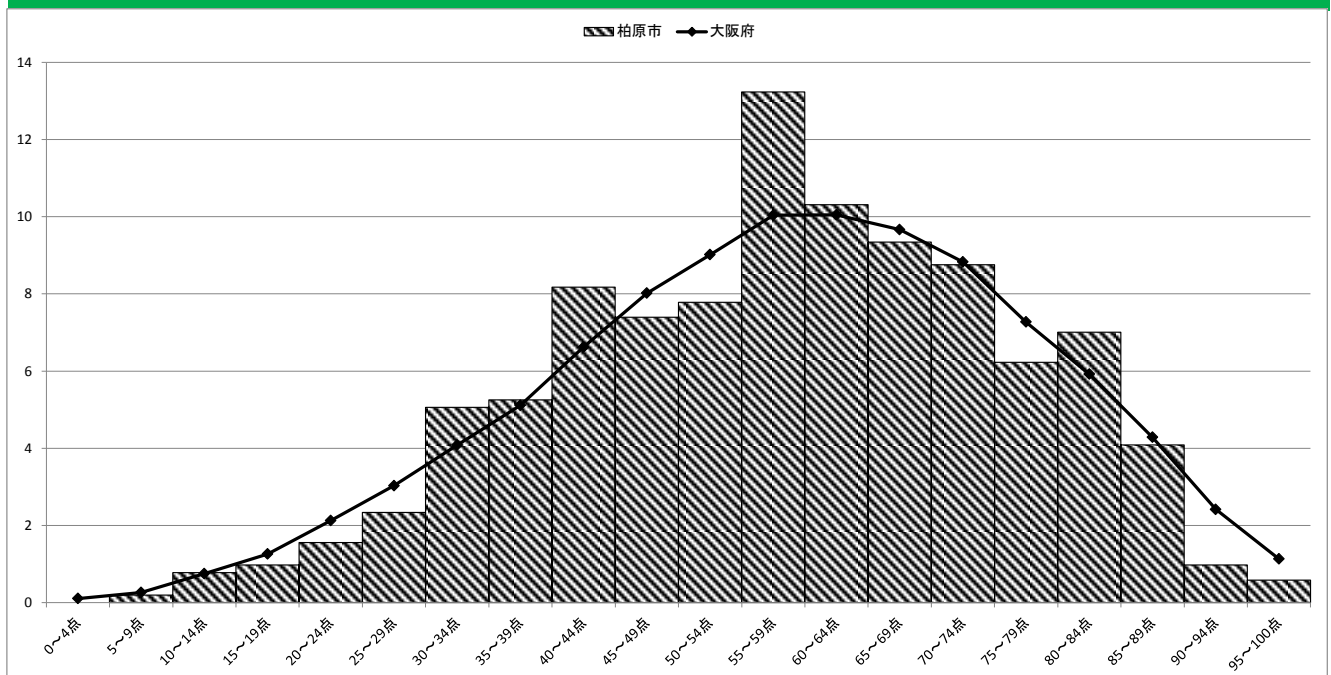


◆特徴的な傾向

- 昨年度課題であった「書くこと」において、大阪府を上回った。
- 得点別分布では、40点未満の生徒が大阪府よりわずかに少ない。
- ▼平均正答率は、大阪府をやや下回った。同一生徒集団の経年比較では昨年度よりも下がった。
- ▼無解答率は柏原市が10.5%、大阪府が10.1%という結果であった。
- ▼「記述式問題」が最も府比を下回る結果となった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

◆得点別分布の割合



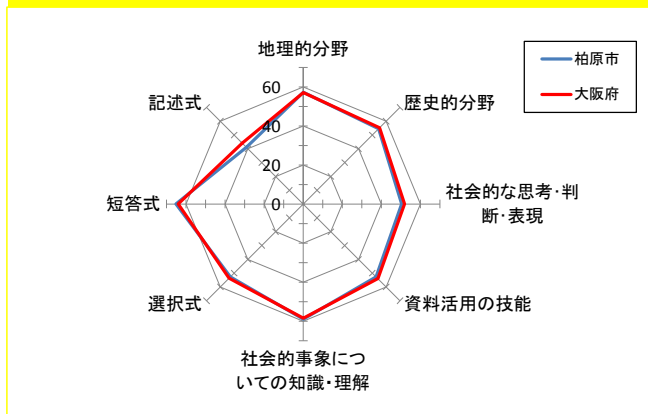
4-2. 2年調査結果(社会)

	平均正答率(%)
柏原市	55.6
大阪府	56.0

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	地理的分野	18	57.3	57.1	1.00
	歴史的分野	17	54.4	55.3	0.98
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	-	-	-	-
	社会的な思考・判断・表現	7	50.3	51.9	0.97
	資料活用 の技能	8	52.7	54.0	0.98
	社会的事象についての知識・理解	19	58.9	58.4	1.01
問題形式	選択式	22	52.8	53.6	0.99
	短答式	10	65.1	64.1	1.02
	記述式	2	41.0	44.1	0.93

※令和元年度(1年次)の社会科の調査はございません。
 ※令和2年度(2年次)については、A問題とB問題の平均正答率を足して2で割った数値で表しています。

◆領域別等のレーダーチャート



◆特徴的な傾向

○「地理的分野、社会的事象についての知識・理解」「短答式問題」において大阪府を上回った。

○「選択式問題」は大阪府とほぼ同水準と言える。

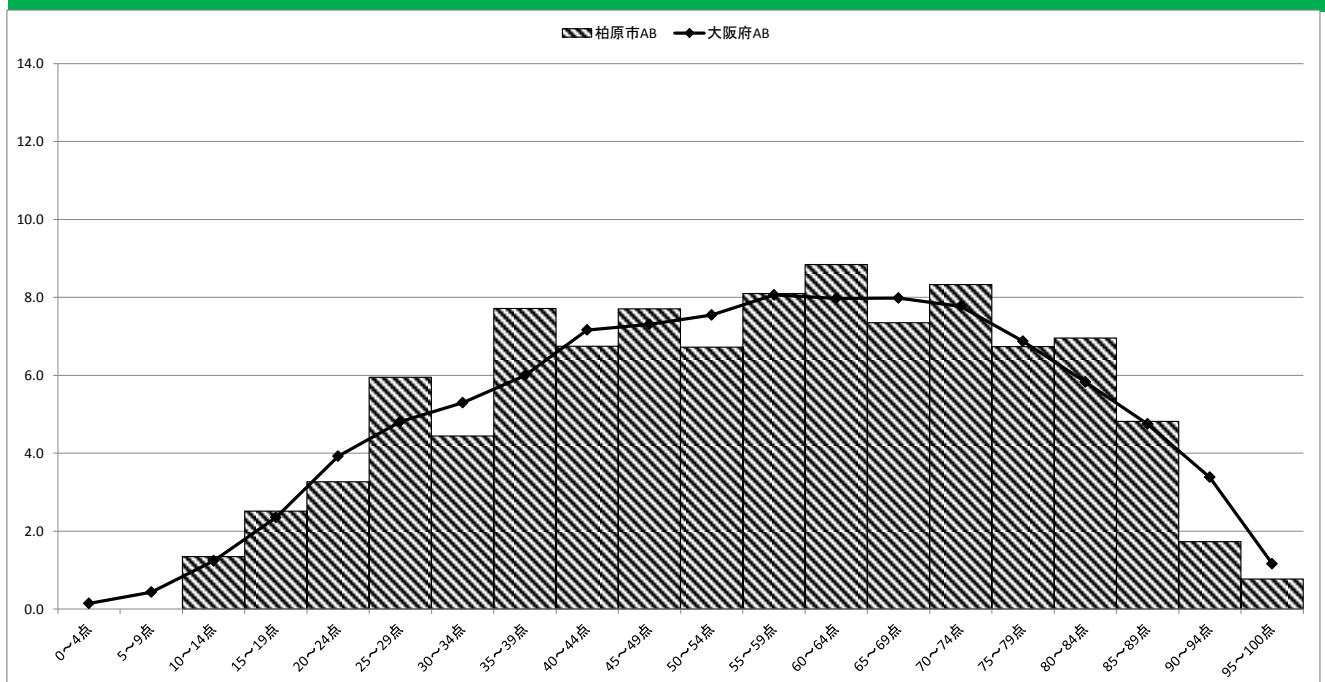
▼「記述式問題」が、大阪府と比べて最も低かった。

▼得点別分布は、大阪府に比べて40点未満の生徒が多く、80点以上の生徒が少ない。

▼無解答率は柏原市が5.4%、大阪府が5.3%という結果であった。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合

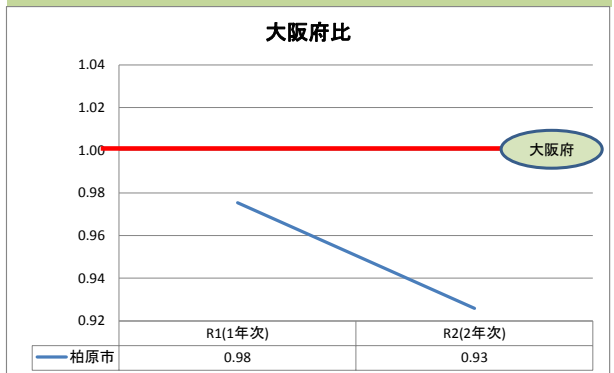


4-3. 2年調査結果(数学)

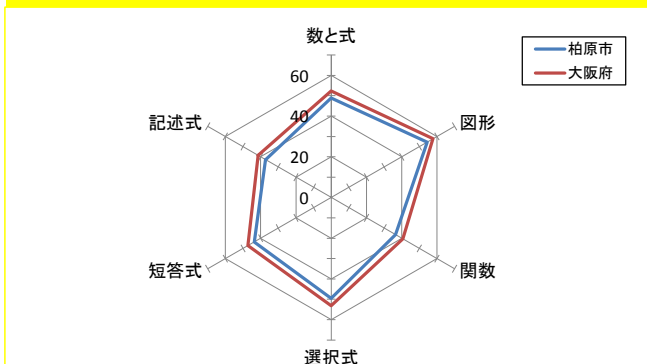
	平均正答率(%)
柏原市	45.8
大阪府	49.4

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	12	48.9	52.4	0.93
	図形	8	54.5	57.7	0.94
	関数	12	36.5	40.6	0.90
	資料の活用	—	—	—	—
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—	—	—
	数学的な見方や考え方	10	37.3	40.5	0.92
	数学的な技能	12	50.5	55.0	0.92
	数量や図形などについての知識・理解	10	48.8	51.9	0.94
問題形式	選択式	14	49.5	53.1	0.93
	短答式	16	43.6	47.2	0.92
	記述式	2	37.3	41.5	0.90

★同一生徒集団の経年比較(令和元年度～令和2年度)



◆領域別等のレーダーチャート



◆特徴的な傾向

○「図形」「数量や図形などについての知識・理解」は比較的大阪府に近い水準である。

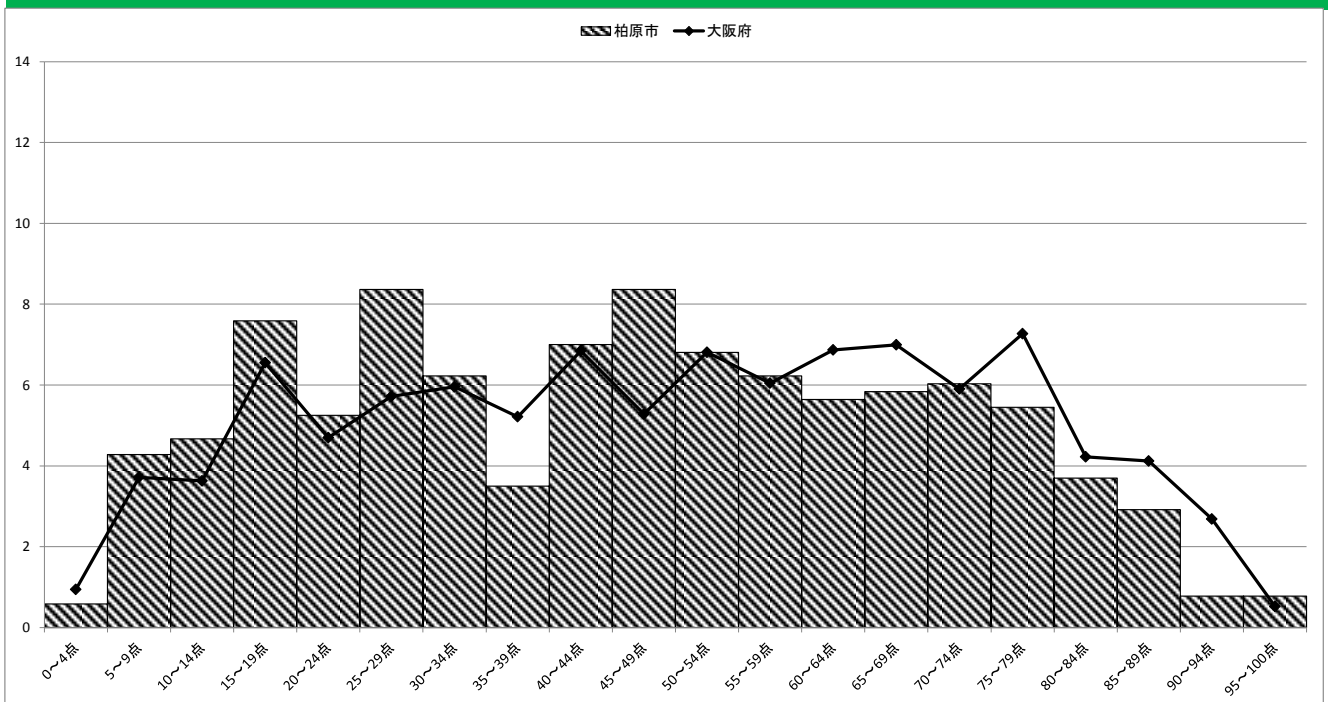
▼すべての項目において大阪府を下回った。

▼「関数」「記述式問題」の得点率が大阪府に比べて特に低い。

▼得点別分布では、大阪府と比べて40点未満の生徒が多く、80点以上の生徒が少ない。

※ ○印:成果 ▼印:課題

◆得点別分布の割合



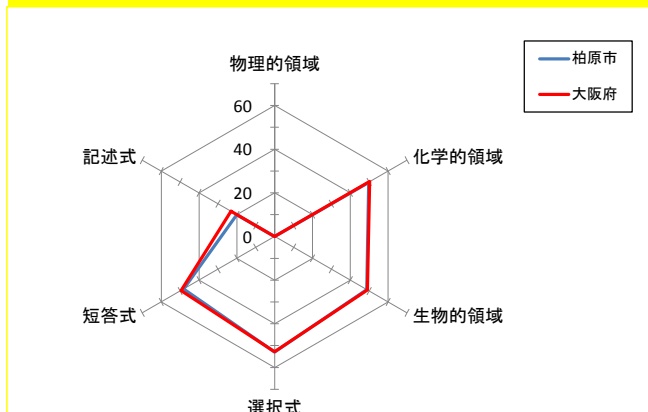
4-4. 2年調査結果(理科)

	平均正答率(%)
柏原市	49.1
大阪府	49.5

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	物理的領域	-	-	-	-
	化学的領域	13	49.7	50.3	0.99
	生物的領域	19	48.7	49.0	0.99
	地学的領域	-	-	-	-
評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度	-	-	-	-
	科学的な思考・表現	18	43.8	44.4	0.99
	観察・実験の技能	2	35.8	33.9	1.06
	自然現象についての知識・理解	12	60.3	61.0	0.99
問題形式	選択式	22	53.0	52.8	1.00
	短答式	8	48.2	49.5	0.97
	記述式	2	20.0	23.1	0.87

※令和元年度(1年次)の理科の調査はございません。
 ※令和2年度(2年次)については、A問題とB問題の区分はなく、統一問題でした。

◆領域別等のレーダーチャート

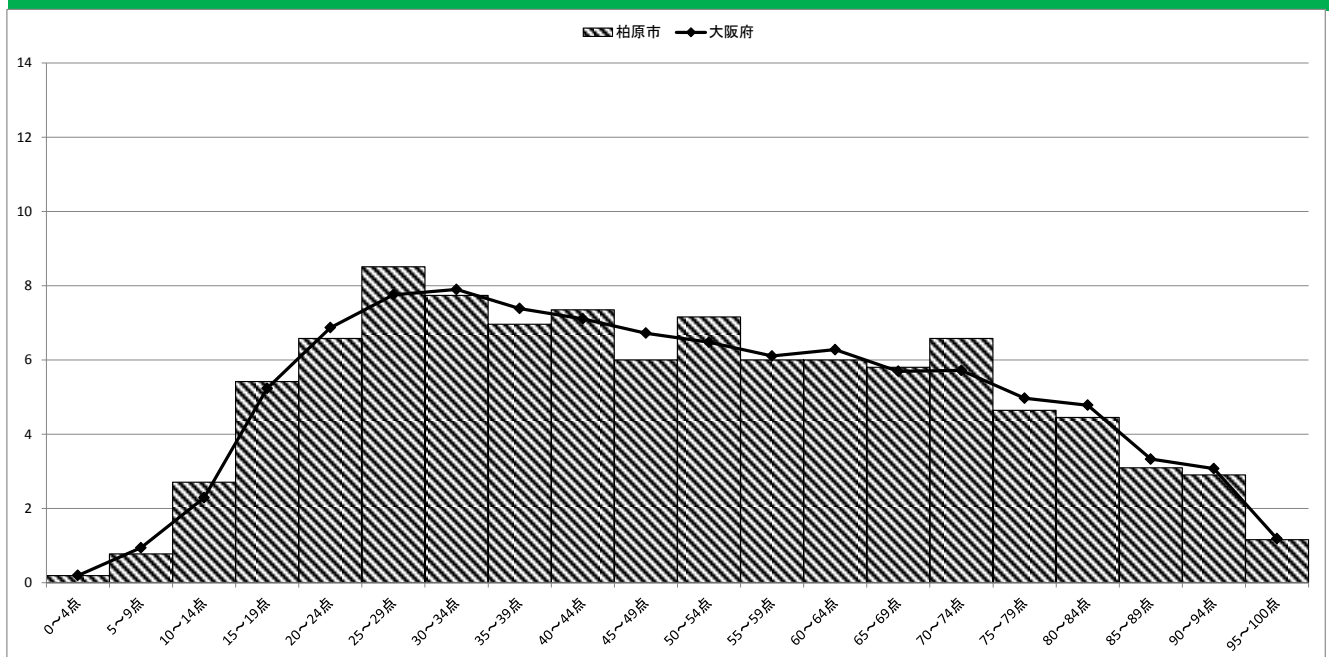


◆特徴的な傾向

- 「観察・実験の技能」選択式問題で大阪府を上回った。
- 「科学的な思考・表現」「自然現象についての知識・理解」はほぼ大阪府と同水準である。
- ▼「記述式問題」が大阪府を大きく下回っている。
- ▼得点別分布では、80点以上の生徒が大阪府に比べて少ない。
- ▼無解答率は、柏原市が6.1%、大阪府が5.8%であった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

◆得点別分布の割合

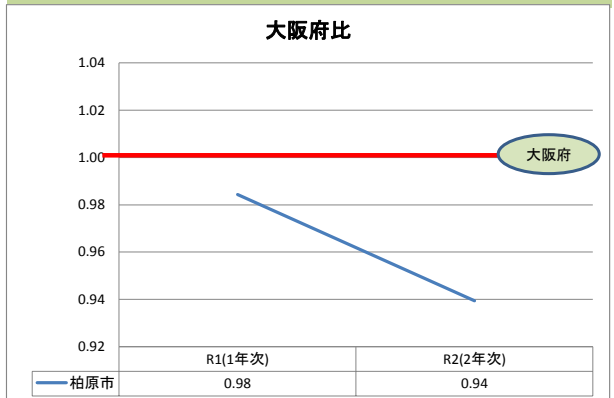


4-5. 2年調査結果(英語)

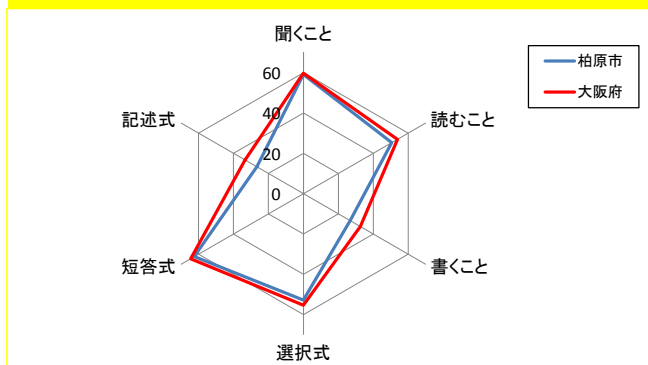
	平均正答率(%)
柏原市	48.9
大阪府	52.0

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	12	59.0	59.7	-
	話すこと	-	-	-	-
	読むこと	25	50.5	53.8	0.94
	書くこと	3	26.8	32.6	0.82
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	-	-	-	-
	外国語表現の能力	3	26.8	32.6	0.82
	外国語理解の能力	29	50.9	53.8	0.95
	言語や文化についての知識・理解	5	56.7	58.8	0.96
問題形式	選択式	31	52.8	55.3	0.96
	短答式	1	62.4	64.5	0.97
	記述式	5	26.6	33.3	0.80

★同一生徒集団の経年比較(令和元年度～令和2年度)



◆領域別等のレーダーチャート

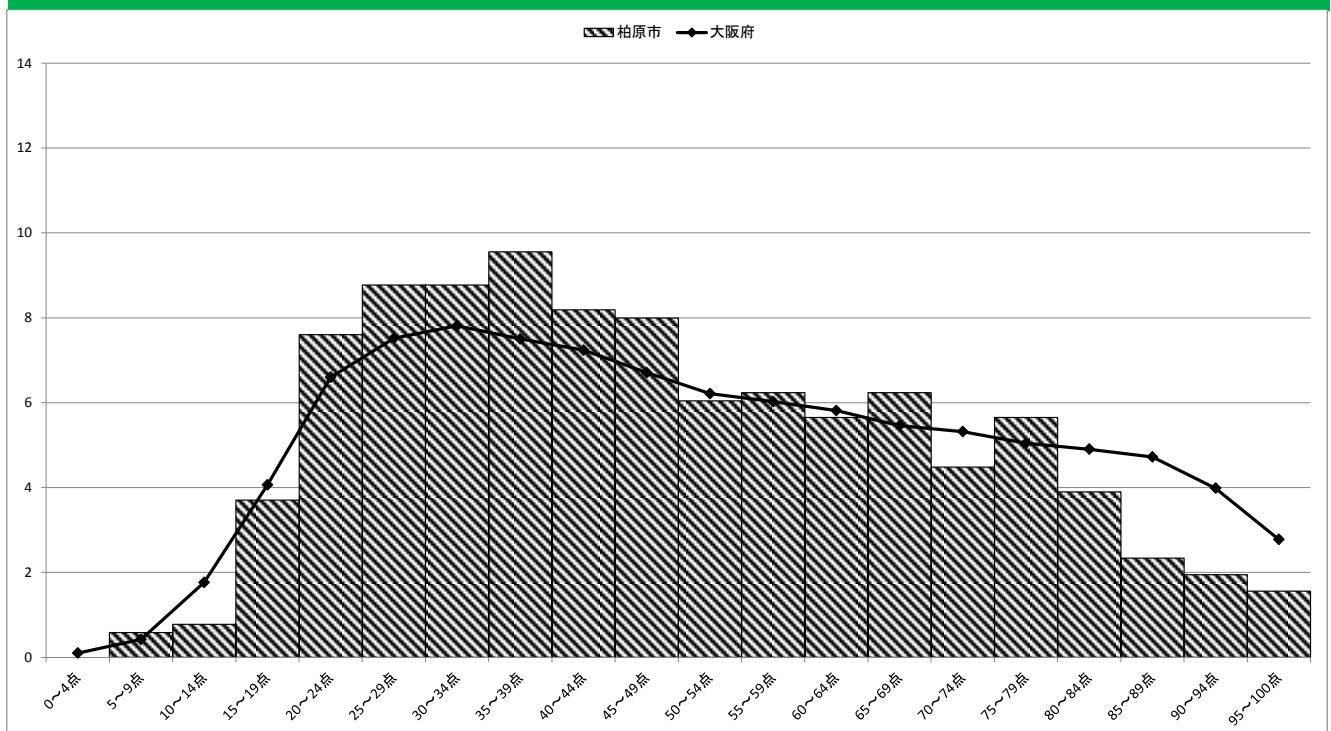


◆特徴的な傾向

- 「聞くこと」については大阪府と同水準である。
- ▼「記述式問題」において大阪府を最も大きく下回った。
- ▼「外国語表現の能力」において大阪府を大きく下回った。
- ▼得点別分布では、大阪府と比べて40点未満の生徒が多く、80点以上の生徒が大きく少ない。

※ ○印:成果 ▼印:課題

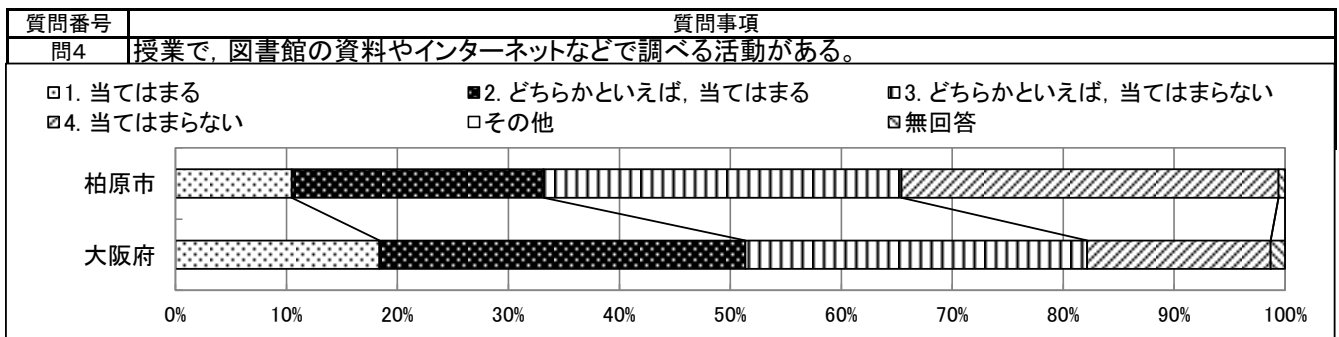
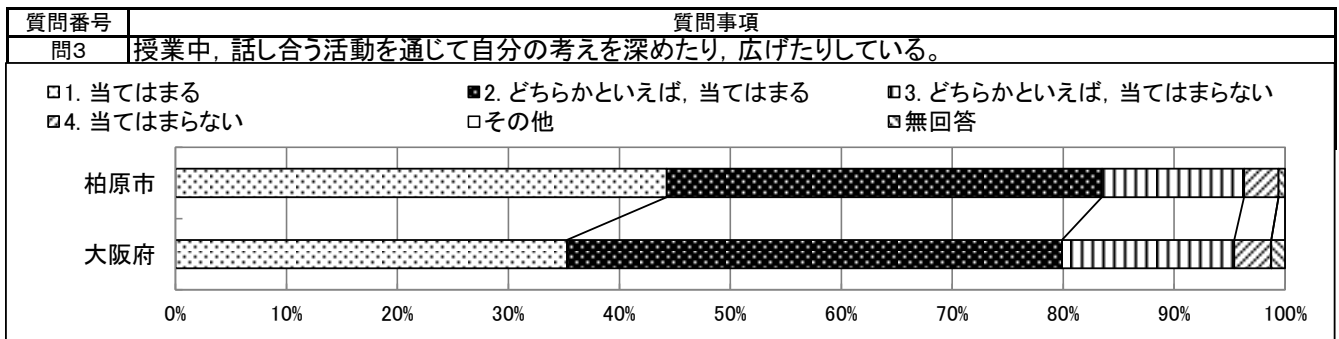
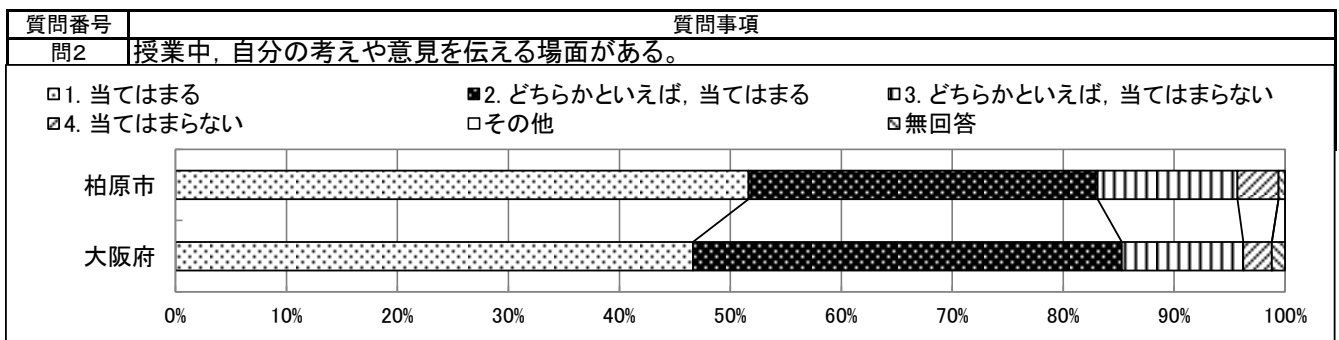
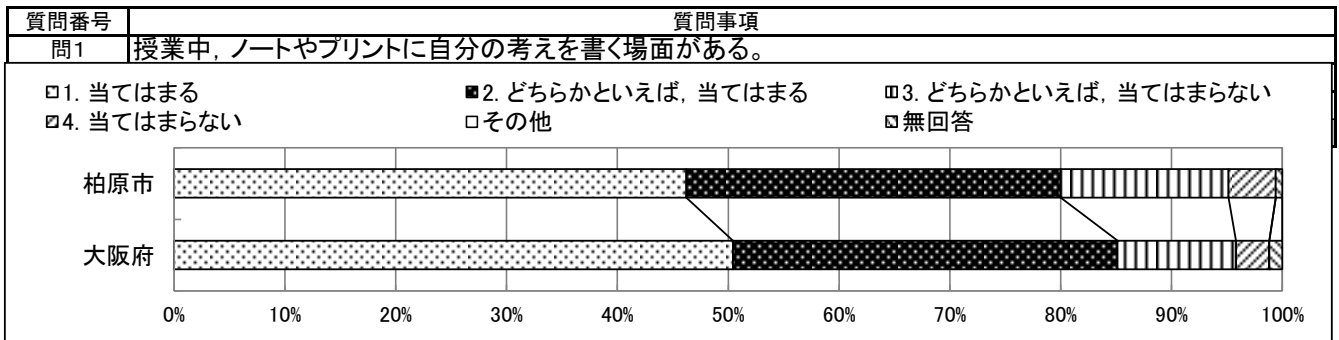
◆得点別分布の割合



令和元年度中学生チャレンジテスト（2年生）

アンケート結果
柏原市教育委員会

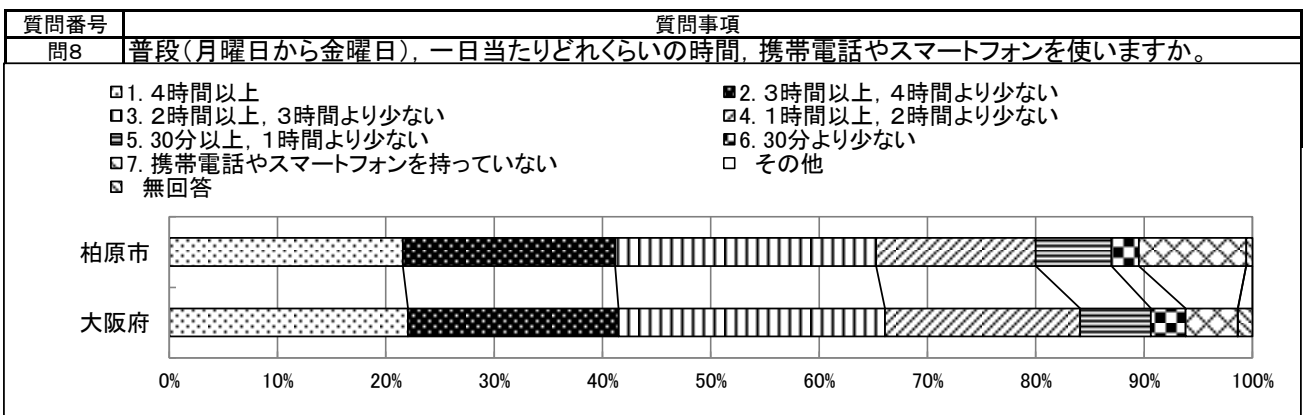
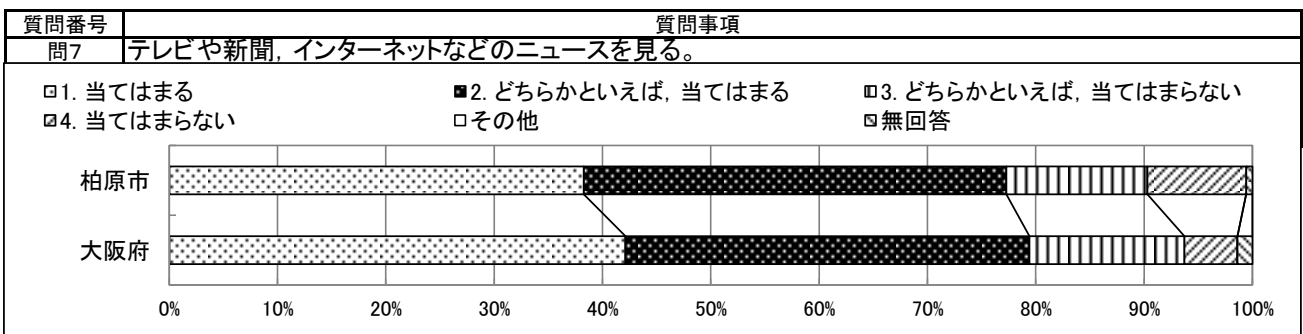
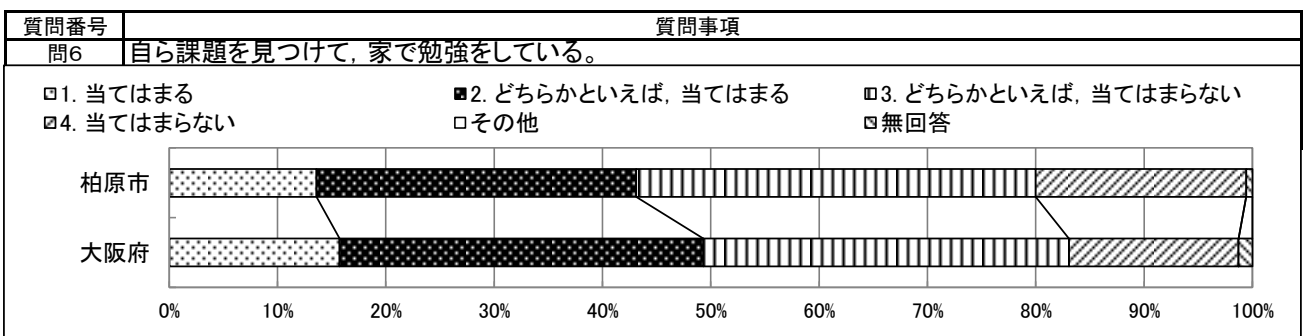
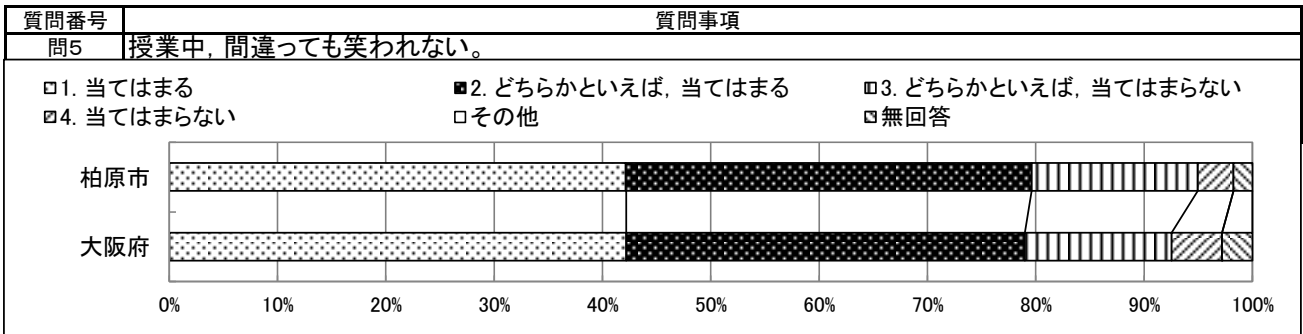
	生徒数
柏原市	515



令和元年度中学生チャレンジテスト（2年生）

アンケート結果
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	515



5-1-1. 国語科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

読むこと／伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

五 5 (A) (B)	平均正答率	無解答率
柏原市	29.2%	34.3%
大阪府	31.0%	34.4%

正答

A:すべて腹を立て候はぬ
B:(例)怒ってしまった【七字】

本文は古文及び現代語訳あり。著作権への配慮により不掲載。
上人と、生まれてから今まで怒ったことがないという修行者の話。聖人であれば腹が立たないこともありえるが、凡夫であればそんなことはないのだから嘘だと言う上人に対し、怒ったことがないといっているではないか、嘘つき呼ばわりするなど修行者が怒鳴る。自分の誤りには気付きにくいという教訓で締めくくられる。(沙石集より)

5 次は、本文の内容について、中学一年生の春田さんと夏山さんが交わした会話です。会話文中の **A** に入る適切な言葉を【古文】中から十字で抜き出さない。また、**B** に入る適切な内容を【現代語訳】から読み取って、現代の言葉で具体的に十字以内で書きなさい。

春田さん この話の修行者は、「私は生まれてから今まで」 **A** 、『』、と言っているね。

夏山さん ところが、「それは、うそであろう」と言われたことに対して、おだやかに返事ができなかったんだね。

春田さん そう。修行者は、顔を真っ赤にして、首をねじって、相手を怒鳴りつけてしまった。つまり

B ということだね。

夏山さん そして筆者は、『凡夫の習ひ、我が非は覚えぬとこそ。』と文章をしめくくっているね。

春田さん なるほど。自分にとって都合の悪いことは忘れてしまうことであるよね。

問題の概要は「内容について書かれた文の空欄に適切な言葉を書く」である。出題の趣旨は「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる」である。正答率が低く、無解答率が高い問題である。

古文や現代語訳の該当箇所には「怒る」という言葉は出てこない。質問に正対するためには文章に描かれた内容を「腹を立てる」や「怒る」といった言葉で表現できるかがポイントとなる。自分の言葉で表現する力が問われる。読むことと書くことをバランスよく育むために、言語活動の活性化が必要である。

5-1-2. 国語科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

書くこと

二 5	平均正答率	無解答率
柏原市	23.0%	25.7%
大阪府	25.6%	21.6%

正答

(例) 体験で学べた内容がわかりにくいので、お店の人の働く様子だけでなく学んだことを具体的に書くほうがよいというアドバイス【五十八字】

【お礼の手紙の下書き】

拝啓 ①。スーパー〇〇西町店の皆様、その後いかがお過ごしでしょうか。私は、青星中学校二年生の谷村です。先日は職場体験学習で二日間お世話になり、どうもありがとうございます。職場体験では、皆様がどのようなお仕事をされているかを知ることができました。また、売り場の清掃やレジのお手伝いなどを体験させていただいたおかげで、大切なことを学ぶことができました。印象に残ったことは、どのお仕事の担当の方も、お客様へのあいさつを常に心がけていらっしゃったことです。それから、商品をとても丁寧に取り扱い扱われていたことです。さらには、いつも整理・整頓が行き届いていたことです。今回の体験学習で学んだことを生かして、自分の将来やりたい仕事について、しっかり見つけていきたいと思えます。店長の山田様をはじめ、お世話になった皆様に、改めて深くお礼を申し上げます。年末に向けてますますおいきしくなると思いますが、お風邪などひかれないよう、ご健康にはくれぐれもお気を付けください。

令和〇年十二月七日
青星中学校二年 谷村 のぞみ

②

5 谷村さんは、「お礼の手紙の下書き」中の [] の内容を推敲する際に、友だちの松山さんからアドバイスをもらい、あとの【書きかえた文章】のように直しました。松山さんは [] の前後の文を読み、どのようなアドバイスをしたと考えられますか。次の条件に従って書きなさい。

条件1 問題点を一つだけ指摘した上で、どのように改善をすればよいかを具体的に書くこと。

条件2 四十字以上、六十字以内で書くこと。

【書きかえた文章】

特に私が学んだのは笑顔であいさつすることの大切さです。どのお仕事の担当の方も、お客様へ自然な笑顔であいさつをなさっていて、気がつけば、私も笑顔であいさつをしていました。すると、お客様のほうから笑顔でお声をかけていただくこともあり、本当にうれしく感じました。笑顔のあいさつの大切さは職場体験がなければ気づけなかったことでした。私は、これからはますますあいさつをしようと思っています。

問題の概要は「アドバイスの内容を考えて書く」である。問題の趣旨は「相手に効果的に伝わるように、具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く」である。正答率が低く、無解答率も府に比べて高い。複数の資料を読み、自分の考えたことについて複数の条件を満たして書くことに課題がみられる。授業では、読み手や分量等を意識した作文指導、比較等の条件をつけて自分の考えを書く学習活動が求められる。

5-2. 社会科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

A 歴史的分野

平均正答率等

4 (3) ②	平均正答率	無解答率
柏原市	20.4%	1.9%
大阪府	29.6%	1.2%

正答

オ

(3) ひろみさんはさらに、16世紀前半ごろの北アメリカ大陸の一部と南アメリカ大陸のようすを表した図Ⅱをつくりました。あとの問いに答えなさい。

図Ⅱ



② 【メモⅠ】は、ひろみさんが16世紀に南北アメリカ大陸の植民地化を進めた国のうち2つの国について調べたものです。あとのア～カのうち、【メモⅠ】中の(c), (d)に入る語の組み合わせとして最も適しているものを1つ選びなさい。

【メモⅠ】

図Ⅱ中のXの地域では(c)が、Yの地域では(d)が、それぞれ植民地化を進め、鉱山を開発したり大農園を開いたりしました。大量の労働力が必要になった(c)や(d)は先住民やアフリカから連れてきた人々を鉱山や大農園で働かせました。

- ア c イギリス d スペイン
 イ c イギリス d ポルトガル
 ウ c ポルトガル d イギリス
 エ c ポルトガル d スペイン
 オ c スペイン d ポルトガル
 カ c スペイン d イギリス

問題の概要は「16世紀の南北アメリカ大陸の植民地化に関する文章中に入る適切な国の組み合わせを選ぶ」であり、出題の趣旨は「スペイン、ポルトガルによる南北アメリカ大陸の植民地化について地域を理解している」である。正答率の最も低い問題となった。国、地域、人物、出来事を結びつけて理解する必要がある。授業では複数の視点から考え、意見を交流する学習活動が必要である。

5-3-1. 数学科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

数と式

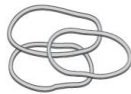
8 (2)	平均正答率	無解答率
柏原市	式21.0%説明4.8%	式33.6%説明49.4%
大阪府	式19.3%説明5.7%	式35.1%説明51.3%

正答

式： $4n-6$

説明：(例)円が n 個だから、最初の2つの円のあとに書いた円は $(n-2)$ 個である。円が2つのときの交点が2個で、1つの円を書くたびに交点が4個多くなるから、交点の数は全部で $2+4(n-2)$ で、 $4n-6$ となる。

8 はるさんとそらさんは、輪ゴムが重なっている様子を見て、円をたくさんかいたときの交点の数について考えてみようと思いました。そこで、次の手順で、同じ大きさの円をかいて交点の個数を調べることにしました。

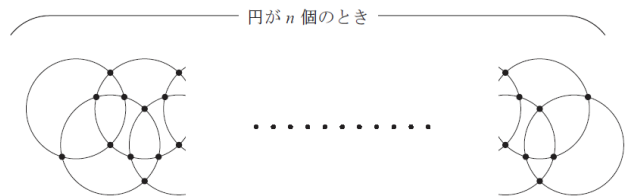


次の(1)、(2)の間に答えなさい。

(1) 円が5つのときの交点の個数を求めなさい。

(2) はるさんとそらさんは、図のように、円が n 個のときの交点の個数を、 n を使った式で表すことを考えました。

図



次の【会話文】は、2人が話し合った会話の一部です。

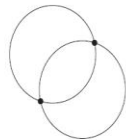
【会話文】

はるさん 円が3つのときの交点は6個だね。円が2つのときより4個多いね。なぜかな？
 そらさん 手順②のように3つ目の円をかくと、最初の2つの円それぞれと2点で交わるから、交点は4個多くなるんだよ。
 はるさん そうか。手順③のように、4つ目の円をかくときも同じだね。そのあとも、円を1つかき加えるごとに交点は4個ずつ多くなっていくよ。
 そらさん 最初の2つの円のあとにいくつ円をかいたかを考えると、交点の個数を式で表すことができるね。

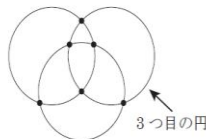
2人の【会話文】を参考にして、円が n 個のときの交点の個数を、 n を使った式で表しなさい。また、その式をどのように導いたか具体的に説明しなさい。

手順

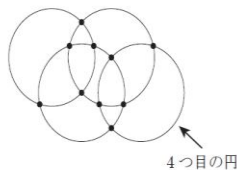
① 交点が2個できるように2つの円をかく。【円が2つのとき交点は2個】



② 3つ目の円を、2つの円それぞれと交点が2個できるようにかく。ただし、すでにある交点は通らないようにする。【円が3つのとき交点は6個】



③ 4つ目の円を、2つの円とだけ交わり、それぞれの円と交点が2個できるようにかく。ただし、すでにある交点は通らないようにする。【円が4つのとき交点は10個】



④ 以下、同じように、すでにある交点を通らないで2つの円とだけ交わり、それぞれの円と交点が2個できるように円をかいていく。

問題の概要は「円が n 個のときの交点の個数を n を使った式で表す／文字を用いた式をどのように導いたかを具体的に説明する」である。出題の趣旨は「具体的な事象の中の数量の関係を捉え、文字式の意味を説明することができる」である。立式の正答率が21.0%であるのに対し、説明の正答率は4.8%であった。授業において、問題の解にのみ焦点を当てるのではなく、その理由等を説明できるよう指導する必要がある。また、既習事項を活用して事象を説明する学習活動が必要である。

5-3-2. 数学科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

関数

平均正答率等

7 (2) ③	平均正答率	無解答率
柏原市	5.6%	39.3%
大阪府	9.7%	34.6%

正答

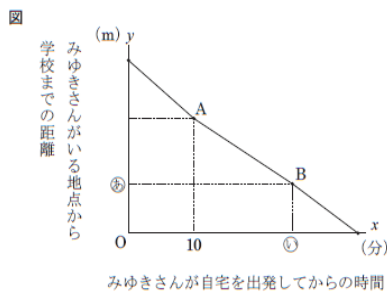
200m

7 一直線の道路沿いに、みゆきさんの家、たかしさんの家、学校があり、たかしさんの家はみゆきさんの家と学校との間にあります。

みゆきさんは、7時30分に自宅を出発して8時5分に学校に着いたのですが、途中で2度歩く速さを変えました。1度目は自宅を出発してから10分後に分速60mに変え、2度目は学校までの距離が700mになった地点で変えました。速さを変えたとき以外は、それぞれ一定の速さで歩きました。

図は、みゆきさんが自宅を出発してからの時間を x 分、みゆきさんのいる地点から学校までの距離を y mとしたとき、 x と y の関係をグラフに表したものです。

図中の点A、点Bはそれぞれ歩く速さを変えた1度目と2度目の点を表しています。表は、みゆきさんが自宅を出発してからの時間とみゆきさんのいる地点から学校までの距離の関係を表したものです。あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。



表

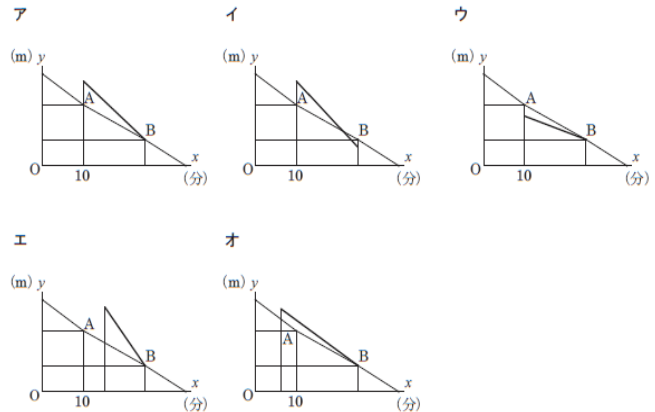
時間 (分)	0	1	2	...	10	...
距離 (m)	2400	2320	2240	...	1600	...

(1) 図と表から、次の①～③の問いに答えなさい。

- ① みゆきさんの家と学校との距離を求めなさい。
- ② みゆきさんが自宅を出発してから10分後までの x と y の関係を表した直線のグラフの傾きを、次のア～エから1つ選びなさい。
ア 80 イ 60 ウ -60 エ -80
- ③ 図中の④、⑤は、点Bの y 座標、 x 座標の値をそれぞれ表しています。④、⑤の値を求めなさい。

(2) たかしさんは7時40分に自宅を出発し、学校に向かって分速100mの速さで歩いていくと、学校までの距離が700mの地点でみゆきさんに追いつきました。次の①～③の問いに答えなさい。

- ① たかしさんが自宅を出発してから学校までの距離が700mの地点に到達するまでの時間と、たかしさんのいる地点から学校までの距離の関係を表したグラフを、図の中に太い直線(—)で書き入れたものが、次のア～オの中にあります。最も適しているものを1つ選びなさい。



② たかしさんがみゆきさんに追いつくまでの間、同じ x 座標における2人のグラフの y 座標の差は何を表していますか。次のア～エから1つ選びなさい。

- ア 2人が歩いた時間の差
- イ 2人の歩く速さの差
- ウ 2人の歩いた距離の差
- エ 2人の学校までの距離の差

③ たかしさんの家とみゆきさんの家との距離を求めなさい。

問題の概要は「2人の家の距離を求める」である。出題の趣旨は「与えられた図表から、必要な情報を適切に読み取り、事象を数学的に解釈することができる」である。昨年度に引き続き正答率が低く、無解答率が高い傾向の問題である。また、府との無解答率の差も大きい。

複数の資料と問題文を読み、一つ一つ図や表に書き込むことで正答にたどり着ける問題である。問題文や図表の意味を理解し、まとめる力が必要となる。問題を解くのに必要な情報とそうでないものを整理する力が求められる。授業の中で、ある程度まとまりのある文章を読み、問われていることがなにかを理解させる工夫も必要である。

5-4. 理科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

生物的領域

1 (2) ② ii	平均正答率	無解答率
柏原市	11.4%	10.8%
大阪府	16.1%	9.8%

正答

あ(例)立体的に見える範囲が広い【12字】
い(例)見ることのできる範囲が広い【13字】

② かずやさんたちは、写真2のコツメカワウソと写真3のアメリカビーバーについて、骨格標本（頭の骨）と正面からの顔の写真を見ながら、その特徴を話合っています。(i), (ii)の問いに答えなさい。

写真2 コツメカワウソ



写真3 アメリカビーバー



【会話】

かずやさん：コツメカワウソやアメリカビーバーは、水辺で暮らすホネウ類だね。どちらもよく似た環境で生活しているみたいだけれど、何か違いがあるのかな。

なぎささん：頭の骨の写真を見ると、コツメカワウソとアメリカビーバーでは歯のようすが違って、それぞれ特徴があることがわかるよ。

図2 コツメカワウソの頭の骨



アメリカビーバーの頭の骨



たけしさん：本当だ。何を食べるかによって、歯の大きさや形が違うのだね。

かずやさん：頭の骨と合わせて正面からの顔の写真を比べてみると、目のつき方も違うことがわかるよ。

図3 コツメカワウソ



アメリカビーバー



なぎささん：コツメカワウソは目が前向き（顔の正面）についているけれど、アメリカビーバーは目が横向き（顔の側面）についているね。

たけしさん：そうか！コツメカワウソのように目が前向きについていると から、獲物との距離をはかりやすく、追いかけるのに役立つよね。また、アメリカビーバーのように目が横向きについていると から、後方にいる敵も見つけやすく、逃げるのに役立つということだね。

かずやさん：なるほど。動物は、それぞれの生活に適したからだのつくりをしていると言えるそうだね。ほかの動物も調べてみたいな。

(i) 次の<説明>ア、イは、それぞれ、コツメカワウソとアメリカビーバーのいずれかについて書かれたものです。【会話】中の下線部について、図2を参考に、コツメカワウソの説明だと考えられるものを、<説明>ア、イから1つ選びなさい。また、そう判断できるコツメカワウソの歯の特徴として最も適しているものを、あとの<歯の特徴>ウ、エ、オから1つ選びなさい。

<説明>

- ア 森林地帯の河川や湖に生息する。木の皮や葉などを食べる。
- イ 河川や湖、沼地に生息する。エビ、カエル、魚などを食べる。

<歯の特徴>

- ウ 門歯が長く先端がすどい
- エ 犬歯が大きくすどい
- オ 臼歯が大きく平らである

(ii) 【会話】中の , には、目のつき方の違いによる見え方の特徴が入ります。空欄に入る適切なことばを、それぞれ15字以内で書きなさい。

問題の概要は「コツメカワウソとアメリカビーバーの目のつき方の違いによる見え方の特徴を、それぞれ15字以内で表現する」である。出題の趣旨は「コツメカワウソとアメリカビーバーの目のつき方の違いから、草食動物と肉食動物の視野の違いを表現することができる」である。正答率の最も低い問題である。昨年度と同様、図と会話文から情報を読み取り、既知の情報と結びつけて記述する力に課題がみられる。授業の中では、科学的な思考・表現を育む工夫として、知識をまとめる活動や、まとめたものを表現する活動が必要である。

5-5-1. 外国語(英語)科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

読むこと／書くこと

8 (3)	平均正答率	無解答率
柏原市	25.0%	17.7%
大阪府	26.8%	22.9%

正答

(例) She plays soccer.(.)

- ⑧ ヒロキ (Hiroki) が通う学校では、インドネシア (Indonesia) 東ジャワ (East Java) にある学校と交流があり、その学校に通うワヤン (Wayan) とヒロキは、英語で手紙のやりとりを続けています。次の【2人の手紙】を読んで、あとの【質問】に答えなさい。

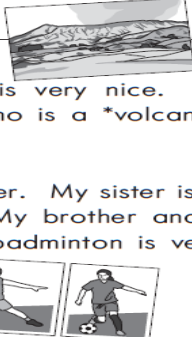
【2人の手紙】

*Dear Hiroki,

*Thank you for your pictures. *Osaka Castle is very nice. In Indonesia, we have good *places, too. *Mt. Bromo is a *volcano. It's a nice place in East Java. (①), Hiroki? I sometimes go to Mt. Bromo *with my family.

*Look at this picture. I have a sister and a brother. My sister is a *high school student. She is a soccer *player. My brother and I [②] *badminton players. In Indonesia, badminton is very *popular. We like *sports *very much. [③] you have sisters and brothers, Hiroki?

Your friend, Wayan



(注) dear ～ 親愛なる～ (手紙の書き出しに使う) thank you for ～ ～をありがとう
 Osaka Castle 大阪城 place 場所 Mt. Bromo ブロモ山
 volcano 火山 with ～ ～といっしょに Look at ～. ～を見て下さい。
 high school student 高校生 player 選手・演奏者 badminton バドミントン
 popular 人気がある sport スポーツ very much とても


Dear Wayan,

Thank you for the nice pictures about East Java. *Sorry, I don't *know Mt. Bromo. In *Japan, we have *many *volcanoes and *hot springs. I go to hot springs with my family. (④) in East Java, too?

I have a sister. She is a high school student. She is a guitar player. She [⑤] play sports. But I am a baseball player. In Japan, baseball is a very popular sport.

Look at this picture. I have two cats and a dog in my house. They are very good friends. (⑥), Wayan?

Your friend, Hiroki



(注) sorry ごめんなさい know 知っている Japan 日本 many 多くの
 hot spring 温泉

- (3) 【2人の手紙】の内容から、次の英文に続く質問に対して、適している答えを3語の英語で書きなさい。なお、ピリオドなどの符号は語数に含みません。

Wayan has a sister. What does she play?

問題の概要は「2人の手紙を読み、「ワヤンの姉は何をしているか」という質問に対する適切な答えを3語の英語で答える」である。出題の趣旨は「手紙文を読み、内容を把握し、理解している」である。複数の資料から必要な情報を読み取る力と、問題文に直接書かれていない表現を書く力が求められる。授業では読み取った内容を英語で説明したり、思いや考えを英作文で表現する学習活動が必要である。

5-5-2. 外国語(英語)科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

読むこと

平均正答率等

9 (1) ②	平均正答率	無解答率
柏原市	16.2%	2.7%
大阪府	23.3%	2.0%

正答

ア

- ⑨ エミ (Emi) は姉のユリ (Yuri) と、夏休みをアカネ市 (Akane City) の祖母の家で過ごしました。次のエミの英語のスピーチを読んで、あとの【質問】に答えなさい。

Hi, I'm Emi. Today, I will talk about my summer vacation. My sister Yuri and I went to my *grandmother's house on July 26. My grandmother lives in Akane City. On July 27, an *exchange student came to my grandmother's house from Australia. Her name is *Ann. Ann and I were fifteen years old when she came to Japan.

Ann went to a language school in Akane City to study Japanese every morning. She went shopping or *sightseeing with Yuri and me every afternoon. She liked to go shopping in Japan. It was very interesting for her.

*While Ann was in Japan, she *became sixteen years old. Her birthday was on August 8. My grandmother, Yuri and I had a birthday *party for Ann. It was on Saturday. Yuri *invited two friends and I invited one friend. They came to the party. My grandmother, Yuri and I were also at the party. My grandmother *cooked Japanese food. Ann said, "I like to eat Japanese food. It is very *delicious." We also played *janken with her. Janken was very exciting for all. She got birthday *presents from us, and she *looked very happy. At the *end of the party, Ann talked to us.

"Can I have Japanese friends in Japan? This was my *worry in Australia. But Yuri and Emi came to stay with me. And we became good friends. It is very nice. Please come to my house in Australia. I will *send a present to Emi on her birthday, December 2."

She stayed with us *for two weeks, and went *back to Australia on August 9.

- ② 何人の人が、8月8日にエミの祖母の家でひらかれた誕生パーティーにいましたか。

ア 7人 イ 6人 ウ 5人 エ 4人

問題の趣旨は「エミのスピーチを読み、内容を理解している」かである。正答率が最も低い。1名少なく見積もった誤答が最も多いところから、アンを数えなかった生徒が多いと予想される。また、前後の問題の正答率の高さから、部分的に意味を把握することはできていると考えられる。長い文章の内容を全体として捉える力が必要である。場面を想像して読む習慣や、文脈を読み取る力の育成が求められる。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・ICT機器の導入による情報活用能力の向上と並行して、「書く力」や「書くための読む力」といった言語能力の向上をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく。
- ・情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していく

○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・授業においてICTを積極的に活用した授業作りをすすめる
- ・複数の資料から必要な情報を読み取り、考えたことを目的や意図に応じて工夫して表現し、交流させる活動等を充実させる
- ・具体的な事象を式やグラフに表したり、根拠となるものを明らかにし、筋道を立てて説明するような活動を充実させる
- ・すべての子どもたちが主体的に取り組める課題を設定する
- ・知識や技能を日常生活の中で活用する場面を複数回設定できる計画を策定する
- ・低得点域の底上げと同時に、高得点域の伸長を図る

○ご家庭にお願いすること

①基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝食をとるよう促し、脳を活性化させ、やる気や集中力を高め、学習能力の向上につなげる

②家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす（学年×10分）を決める
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

③スマートフォンやゲーム等のメディアについてのルールづくり

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する